令和5年度

青少年健全育成地区委員会等
推進モデル事例集

東京都

はじめに

次代を担う青少年が心身とも健やかに成長するためには、家庭や学校だけでなく、地域社会の役割も重要です。地域の方々とのふれあいや体験の中で、青少年は多様な価値観に触れ、社会性を身につけていきます。

都内には720の地区委員会があり（令和５年４月１日現在）、地域の実情に即した活動を行っています。本事例集では、地区委員会等が主体となって地域ぐるみで青少年を健全に育成する取組を「青少年健全育成地区委員会等推進モデル」として紹介しています。参考にしていただくことで、それぞれの地区の青少年の健全育成に関する活動の活性化や広がりにつなげていただければ幸いです。

また、今年度はより多くの地区の取組を知ってもらうことを目的に、モデル事例に加え地域の取組事例を掲載しました。

この冊子が、みなさまの今後の活動の一助となりますよう願っております。

目　次

■ **モデル事例等の紹介**

モデル事例１　世田谷区青少年砧地区委員会
親子でボールと遊ぼう！ …… 1

モデル事例２　江戸川区青少年育成小松川平井地区委員会
小松川平井マラソン大会 …… 7

モデル事例３　八王子市青少年対策城山地区委員会
城山防災・スポーツフェスティバル …… 13

■ **地域の取組事例の紹介**

西東京市青少年育成会連絡会（第 22 回西東京市歩け歩け会実行委員会）
第 22 回西東京市「歩け歩け会」
～イベントを通じた中学生ボランティアの活動場所づくり！～ …… 19

神津島村教育委員会
巨樹と清流の町、奥多摩ふれあい学級
～奥多摩の歴史を学び、地域の小学生と交流を図る～ …… 21

■ **参考情報**
東京都の青少年健全育成事業（概要） …… 23

■ **過年度青少年健全育成地区委員会等推進モデル事例一覧（直近 10 年間）** … 26

■ **地区委員会等推進モデル事業について** …… 27

モデル事例１　世田谷区青少年砧地区委員会

親子でボールと遊ぼう！

地区委員会の概要

「青少年砧地区委員会」は、地域のさまざまな世代の大人が情報や知恵を出し合いながら、地域で子どもが豊かに育っていけるように継続的に地域の子ども全体を見守る区民による自主運営の組織です。世田谷区では、まちづくりセンターの区域（全 28 地区）を単位として設置されており、地区の特色と活力を生かして、それぞれの地区の実情を反映した自主的な活動を行っています。砧地区では、「子ども自然観察会」、「砧ラリー」、「親子でボールと遊ぼう！」の３大行事に加えて、広報誌の発行や地域の子どもたちの育成に関わる研修会を実施しています。

事業の概要

――今回モデル事例に指定された、「親子でボールと遊ぼう！」の概要について教えてください。

・事業開始の経緯

この事業を始めた経緯は、冬になると体を動かすことが少なくなるため、冬でも親子で楽しめるイベントができないかと委員同士で話をしたことがきっかけでした。委員と事務局で協議を重ね、平成 15 年２月に第１回を開催しました。

毎年、１月下旬～２月上旬に開催していましたが、令和２～３年度はコロナ禍のため中止となりました。昨年度はコロナ禍も少し落ち着いてきていたこともあり、実施内容の見直しを行った上で令和５年１月 29 日に開催することができました。

・実施日・実施場所・参加人数

令和５年１月 29 日（日）10：00 ～ 13：00　世田谷区立総合運動場体育館　57 名

事業の内容

――事業の内容を教えてください。

コロナ禍以前は、毎年、ニュースポーツを体験してもらう狙いもあり総合運動場の体育館でキンボールとショートテニスを実施していましたが、再開を検討する際に、まだ人と人の間隔を空けることでの感染症対策が必要であることから、今回はショートテニスを主な種目としました。また、ショートテニスの順番待ちの参加者向けに、東京 2020 パラリンピックでも話題となったボッチャができるコーナーを設けました。

世田谷区では青少年砧地区委員会に所属しているスポーツ推進委員を中心にボッチャを推進していることから、子どもたちにボッチャを広く知ってもらう意味も込めて数あるボール競技の中から選びました。委員会で協議を重ねた結果、①２人１組のチームを 40 組 80 名程度募集する（コロナ禍のため参加者数を制限）、②ショートテニスはトーナメント制で実施する、③体育館の一面はボッチャコーナーとして参加者にボッチャを体験してもらうという内容になりました。

事業の内容事前準備、周知・広報

――事業の事前準備や周知・広報について工夫したことはありますか。

広報は、砧地区管轄内の小学校の協力を得て全校児童へチラシを配布し、各町会・自治会にも広報・周知の依頼を行いました。その結果、定員を上回る応募があり、抽選で選ばれた 57 名が参加しました。また、事業の運営にあたり青少年砧地区委員だけでなく総合運動場を管理する（公財）世田谷区スポーツ振興財団と山野児童館の職員にもご協力いただきました。

周知・広報用チラシ

当日の実施の様子

――「親子でボールと遊ぼう！」の当日の様子について教えてください。

当日は、開始 1 時間前にスタッフが集まり会場設営を行いました。会場では新型コロナウイルス対策を徹底し、受付では密にならないように注意しながら参加者の検温や手指消毒を行いました。また、競技時以外にはマスクの着用を徹底するよう参加者・スタッフに呼びかけを行いました。

令和 4 年度　親子でボールと遊ぼう！
当日タイムスケジュール

時間	内容	
8:30	事務局　物品搬送 (砧まちづくりセンター → 総合運動場体育館)	
9:00	スタッフ（地区委員、児童館職員、スポーツ推進委員） 集合（体育館内）	
	スタッフ全体打合せ	
	担当ごと（ショートテニス、受付）に分かれ打合せ →打合せ終了後、設営開始 ※防球フェンス設置はレクリエーション終了後	
9:30	受付開始（受付、誘導、自転車整理）	
10:00	開会	・司会進行（行事部長）
		・主催者挨拶（会長）
10:05	準備体操（スポーツ推進委員）	
10:20	参加者・スタッフ全員参加のレクリエーション (山野児童館) →終了後、防球フェンス設置	
10:40	練習開始	種目　『ショートテニス』
11:00	ゲーム開始	・対戦結果記入等
		※待機している人が試合中の人とぶつからないよう注意してください ※随時休憩をとってください
		★ボッチャコーナー（体育館入口側 1 面）
		・ショートテニスの試合が終わったチームに参加を呼びかける
12:40	ゲーム終了	・整理体操（スポーツ推進委員）
	閉会	・司会進行（行事部長）
		・表彰式（クッキーメダル授与）
		・主催者挨拶（会長）
		・参加賞配布（プリントクッキー）
13:00	・参加者解散	
	・片付け作業 ※体育館借用物品は元あった場所に戻してください	
13:20	スタッフ解散　※行事部会は終了後反省会	

当日のタイムスケジュールです。
事業を実施する際の参考としてご活用ください。

レクリエーションの様子

ショートテニスの様子

午前 10 時に会長の開会挨拶から始まり、スポーツ推進委員による準備体操で参加者・スタッフともに十分に体を温めた後、山野児童館長によるレクリエーションを行いました。体全体を動かすだけでなく、勝ち負けあいこを考えながら行うじゃんけんゲームや、じゃんけんの結果によって足元に敷いた新聞紙が広がったり、畳まれたりする「負けたら二つ折り新聞紙じゃんけん」を行い、様々なレクリエーションを楽しみながらショートテニスのペア同士の仲を深めることができました。

ショートテニスのルール説明

ショートテニスの様子

ショートテニスでは、最初にスポーツ推進委員による解説を含めた模擬試合を行いました。解説が終わると、実際にボールを打ち返してみるチームやラリーに挑戦するチームもありました。11 時からショートテニスの試合が始まると、最初は和やかな雰囲気の中でスタートしましたが、試合が進んでいくと参加者はだんだん真剣モードに切り替わり、子どもも大人も本気の白熱した試合が繰り広げられました。ショートテニスで負けて、悔しくて大泣きする子がいるのは毎年のように見られる光景でもあります。

ボッチャの様子

ボッチャの様子

一方の、ボッチャコーナーではスポーツ推進委員や事前にルール説明を受けていた青少年砧地区委員が模擬試合を何試合か進めるうちに、体験を希望して列に並ぶ参加者が増えていきました。その後、実際に体験したことで何度も列に並び直す子どももいました。また、ショートテニスはあらかじめ申し込んだチームでの出場となりましたが、ボッチャの場合は申し込みをしたチームとは関係なくチームを組んで試合を行ったため、それにより子ども同士は仲良くなり、更なる交流が深まりました。

参加者の反応やスタッフの感想

――事業を実施されてみて、当日参加された方の反応や実施した上でのスタッフの感想を教えてください。

ショートテニスを実施する際に、トーナメントから早くに敗退してしまった参加者が残りの時間も楽しめる方法がなかなか見つからないことが長らく課題として挙げられていましたが、今回はボッチャのコーナーを設置したことで、試合の出番が遅いグループや早くに敗退してしまったチームが、試合が終わる最後まで楽しく過ごすことができたことに加え、「ボッチャがとても楽しかった。」「またボッチャをやりたい。」といった参加者からの声もあり、体を動かすだけでなく広くボッチャの魅力を伝える機会になりました。

事業を通して得られたものや課題

――そうした事業を通して、得られたものや課題などは、どのようなものがあったでしょうか？

新型コロナウイルスの影響により２年間中止となっていた事業ですが、コロナ禍でも少しでも子どもたちに楽しんでもらえるようにと、事業内容や開催方法を何度も検討し、準備を進めてきました。親子で協力してスポーツで汗をかくことで、親子間のコミュニケーションの促進や参加者同士の交流を図ることができたと感じています。

地区内の他のイベントではボッチャの体験を行っていたものの、子ども向けイベントでは今回初めての「ボッチャ」を実施しました。それにより多くの子どもたちがルールをすぐに理解してゲームを進めている姿や、大人と子どもの体格差も関係なく楽しんでいる姿を見て、改めてボッチャの奥深さを実感することができました。

終わりに

――最後に、今後へ向けての抱負や展望、感じたこと等を教えてください。

コロナ禍からの復活ということで、令和５年度は昨年度よりも多くの参加者が集まるイベントになると考えています。そのため、青少年砧地区委員会では、子どもたちが楽しんでいる姿や真剣な顔が見られるよう、準備・検討を行っています。

「親子でボールと遊ぼう！」は、地区委員のみならず、スポーツ推進委員や山野児童館、日赤奉仕団砧分団など、地区の多くの方々の協力により、子どもたちが安心して遊べる場を提供しています。今後も、地区の各団体と協力しながら、親子で楽しんでもらえるイベントを提供していきたいと考えています。

モデル事例の指定のポイント

○親子同士だけでなく他の住民との接触の機会を設け、また楽しんで参加する工夫により子どもたちが地区の良さを感じられるようにしている。
○参加者に配布するメダルを、障害者施設のクッキーで作っている。優勝できなくても参加者全員にメダルに使ったものと同じクッキーを配布することで、健闘を称えあっている。
○ボッチャ体験コーナーにより、あまりなじみのないボッチャが体験できるとともに、試合を通して参加者同士の交流を推進している。

連絡先
世田谷区砧総合支所地域振興課砧まちづくりセンター
電話番号 03-3417-3405

世田谷区青少年砧地区委員会 その他の取組

―今回指定されたモデル事例の他にも様々な取組をされていると伺っています。いくつかご紹介ください。

こども自然観察会

このイベントは「身近な場所に自然を見つけに行こう」をコンセプトに、平成 13 年度から実施しています。

取組を始めた経緯

令和 2 ～ 3 年度はコロナ禍のため、令和 5 年度は雨天のため中止となりましたが、令和 4 年度はコロナ禍も少し落ち着いてきていたこともあり、事務局と委員だけでなく、せたがや自然環境保全の会のボランティアとも協議し、実施内容の見直しを行った上で開催しました。

活動内容

- **実施日**　令和 4 年 6 月 12 日（日）10:00 ～ 13:00　• **会　場**　成城 3 丁目緑地
- **参加者**　39 名

令和 4 年 6 月 12 日（日）に成城 3 丁目緑地を会場に実施しました。成城は砧地区と隣接しており、募集対象の砧地区管内の小学生が参加しやすい場所であることと、コロナ禍で事業が中止する前から候補地として挙げられていたことから成城 3 丁目緑地を選定しました。またコロナ禍の影響も考え、募集人数を 20 名に絞って行うことにしました。

広報は、砧地区管轄内の小学校の協力を得て全校児童へチラシを配布し、各町会・自治会にも広報・周知の依頼を行いました。その結果、定員を上回る応募があり、児童と付き添いの保護者を含めた計 39 名が参加しました。また、事業の運営にあたり青少年砧地区委員だけでなく、せたがや自然環境保全の会のボランティアの皆さんにもご協力いただきました。

当日の実施の様子

当日は、開始の 30 分前にスタッフが集まり、準備を行いました。会場では新型コロナウイルス対策を徹底し、屋外とはいえ密にならないように注意しながら参加者の確認や誘導を行いました。青少年砧地区委員会会長と行事部長による挨拶と説明のあと、受付時に割り振られた各班ごとに「せたがや自然環境保全の会」のボランティアに講師として随行していただきました。ボランティアには事前に説明のうえ、参加者の誘導をお願いしました。参加者はボランティアから様々な植物に関する知識を教えてもらったり、湧き水に触れたり、ムクロジの玉と木の枝で作られたパチンコに挑戦したり、様々な体験をすることができました。

事業を通して得られたものや成果や課題

新型コロナウイルスによる影響で 2 年間中止になっていた事業ですが、参加者の皆さんが身近な自然を知り、実際に触れ合いながら学べる良い機会になったと考えます。

自然に恵まれた砧という地域で過ごし、事業を通して自然と触れ合うことで、成長して過去を思い出したときに、自分の過ごした故郷として心に残る経験になってほしいと願っています。

川に触れてみる参加者

砧ラリー

大蔵運動公園と砧公園を広く使い、小学生とその家族が一緒に秋を感じながら、設置された９つのゲームポイント（ペットボトルボウリング、23 区イズ、ストラックアウト、スリッパ飛ばし、大輪投げ、万歩計レース、ぽん太・ぽん子ゲート、キムスゲーム、バードウォッチング）を回るスタンプラリーです。

取組を始めた経緯

こども自然観察会と同時期の平成 13 年度より開始したイベントで毎年 11 月中旬に実施しています。青少年砧地区委員会と事務局のみの運営ではなく、様々な地域団体のご協力もあり、実施しています。

活動内容

・実施日　令和４年 11 月 13 日（日）10:00 ～ 11:45　**・会　場**　大蔵運動公園、都立砧公園
・参加者　199 名

委員会で協議を重ねた結果、まだ感染症対策が必要であるという判断からそれまでの半分程度の小学生を対象に 50 組 200 名程度募集（コロナ禍のため参加者数を制限）し、ゲームコーナーについてはコロナ禍以前のまま変更はしないという内容になりました。またコロナ禍以前は、全てのゲームポイントを回ったあとゴール地点で青少年砧地区委員会特製の豚汁とおにぎりが振る舞われていましたが、感染症対策の点から、事業が復活した令和４年度においては福祉作業所である喜多見夢工房で作られたクッキーとパウンドケーキのセットを配付しました。

広報は、砧地区管轄内の小学校の協力を得て全校児童へチラシを配布し、各町会・自治会のみならず児童館へも広報・周知の依頼を行いました。その結果、定員を上回る応募があり、抽選で選ばれた 49 組 199 名が参加しました。

加えて、青少年砧地区委員だけでなく砧地区内の町会・自治会、各小中学校 PTA、日大商学部砧祭実行委員会、山野児童館、日赤奉仕団砧分団等の地域団体のご協力のもと事業を実施することができました。

キムスゲームの様子

当日の実施の様子

当日は、開始１時間半前にスタッフが集まり会場設営を行いました。会場では新型コロナウイルス対策を徹底し、屋外とはいえ受付では密にならないように注意しながら参加者の確認や誘導を行いました。

青少年砧地区委員会会長と行事部長による挨拶と説明が終わり次第、各ポイントに参加者を誘導してからゲーム開始となりました。広い会場内のゲームポイントを全て回りきろうとグループの友達と手際よく回る参加者や、保護者とゆっくりゲームを楽しむ参加者もいました。ゲームをする中で、各ゲームポイントに配属されたスタッフも、参加者に楽しんでもらえるように積極的な声掛けを行い、交流を深めていました。

全てのゲームを回り終えたゴール地点では、山野太鼓の皆さんによる演奏が行われました。既にゴールしてクッキーとパウンドケーキを貰った参加者や近くにいたスタッフなどが、演奏を聴いていました。

事業を通して得られたものや成果や課題

新型コロナウイルスの影響により２年間中止となっていた事業ですが、まだコロナ禍の影響がある中で再開した初めての大規模な事業ということもあり、感染症対策と子どもたちが楽しめる内容の２点を重視しながら内容の検討を重ね、準備を進めてきました。チームで協力してゲームを進めていく中で、参加者同士の交流を深めることができたと感じています。今回抽選という形になったことで人気の高さを改めて実感し、次回はより多くの人が参加できるように工夫をしたいと思いました。参加した子ども・保護者がこの砧地区の環境と生きる人たちに愛着を感じ、健やかな育ちとなり、いつまでも住み続けることにより、砧地区の風土と風景となり、地区の更なる繁栄に繋がることを願います。

モデル事例２　江戸川区青少年育成小松川平井地区委員会

小松川平井マラソン大会

地区委員会の概要

区内には６地区に17の地区委員会があります。小松川平井地区は、昭和31年より小松川地区・平井地区の２地区に分かれて活動していましたが、平成25年に統合し、今の「小松川平井地区委員会」として青少年の健全育成に日々努めています。

当地区委員会は現在、122名のメンバーが５つの部会に分かれて精力的に活動しています。中でも、小学６年生を対象にした「小学校卒業記念ナイトウォーク」は、平成30年度に本推進モデルに選定されました。

事業の概要

――今回モデル事例に指定された、「小松川平井マラソン大会」の概要について教えてください。

当事業は地域住民の健康促進や子どもたちの忍耐力を育むことを目的に昭和49年にスタートし、今年度で51回目を迎えます。

毎年、１月第２週目の日曜日に荒川河川敷を会場として、800 m～5kmの全19種目に分けて設定されたコースを走ります。各部１～６位の上位入賞者にはメダル・賞状・記念品を贈呈、参加者全員に順位の入った完走証・参加賞を配布しています。

――事業の事前準備や周知・広報について工夫したことはありますか。

参加対象は、小松川平井地区管内在住・在勤・在学の方としています。毎年、11月上旬に管内小・中学校、町会・自治会、区民施設、地元スポーツ団体へ申込書を送付し、募集しています 。

また、江戸川区公式ＨＰ、小松川平井地区で開設しているFacebookにも掲載し、幅広く周知しています。併せて、気軽に大勢の方に参加していただくため参加費を無料にしているのも特長の一つとなっています。

運営は地区委員会のほかに地元少年野球連盟、消防団、ジュニアリーダークラブの方々にもご協力をいただいています。

種目（距離順）	距離	種目（距離順）	距離
親子マラソンの部（5歳～小学２年生と保護者）	800m	小学生５年男子の部	2km
小学生１年男子の部		小学生５年女子の部	
小学生１年女子の部		小学生６年男子の部	
小学生２年男子の部		小学生６年女子の部	
小学生２年女子の部		中学生１年男子の部	3km
小学生３年男子の部	1km	中学生２・３年男子の部	
小学生３年女子の部		中学生１年女子の部	
小学生４年男子の部		中学生２・３年女子の部	
小学生４年女子の部		一般女子の部（高校生以上）	
		一般男子の部（高校生以上）	5km

また、地元中学生へボランティア募集を行い、当日の受付やスタート・ゴール補助、走者への順位（完走証）配布、開会式でのラジオ体操模範など毎年 100 名以上のお手伝いをいただいています。こうした中学生ボランティアの従事は、大会に活気を与えているとともに、世代間交流の格好の場となっています。

新型コロナウイルス感染症の影響により 3 年ぶりの開催となった 50 回大会では、感染症対策として受付待機列の拡張、会場内に消毒液を配置、参加者の密を防ぐために会場レイアウトの見直しを行いました。

また、これまで主催者にて用意している布ゼッケン（体の左右で結ぶ）の着用を参加者にお願いしていましたが、配布・回収時の密や不特定多数の方が触れるものを避けるためにシールゼッケンを導入し 、大会進行を改善しました。

当日の実施の様子

――「小松川平井マラソン大会」の当日の様子について教えてください。

当日は冬の寒さを忘れるほど、温かい日差しの下で開催することができました。

実行委員は朝 7 時 30 分に現地へ集合し、前日積み込みをした物品をトラックから降ろし、テント 14 張りをはじめとする受付および大会本部の設営を 1 時間と限られた時間の中で協力し合いながら行います。

その後､8 時に中学生ボランティアが集合し､下記の各係に分かれて運営の最終打合せを行い、8 時 30 分より受付を開始します。

・当日の各係役割

①総務・救護係 …… 上位入賞者への賞状・メダル・記念品贈呈
※救護には地元医師・看護師の方にご協力いただいています。
②受付係 …… 申込受付、シールゼッケンの配布
③集合・誘導係 …… レース前の集合、スタート地点への誘導・整列
④審判係 …… スタート・ゴールなどレース全体の審判、タイム測定、完走証の配布
⑤記録係 …… 審判係と連携し入賞者の確保（表彰式を行うため）、タイム整理、参加賞配布、入賞者のタイム速報
⑥監察係 …… 折り返し地点での安全確保、レースの先導・後従
⑦表彰状係 …… 入賞者の賞状印刷、タイム速報印刷
⑧広報係 …… 広報誌用の取材、写真撮影

会場の様子

親子マラソン スタートの様子

開会式には、来賓として小松川平井地区連合町会長や地元衆議院議員、区議会議員、学校長の方々にお越しいただき、参加者へ激励の言葉をいただきました。

そして大会開始を告げる第１種目のスターターは、日頃ご支援・ご協力をいただいている連合町会長に務めていただきました（右写真）。レースについては、長距離からスタートし、その後、短距離をスタートすることで参加者同士の接触を防ぎつつ、待機時間の短縮を図っています。

スタート合図をする小松川平井地区連合町会長

また、応援については、毎年多くの保護者の方などにお越しいただいていましたが、新型コロナウイルス感染症対策として「最小限の人数」と制限を設け、密のリスクがあるスタート・ゴール地点には立入禁止エリアを設置する工夫をしました。

50 回記念を迎える今大会では、ミズノ株式会社・大塚製薬株式会社より上位入賞者への賞品および参加者への記念品（飲料・栄養食品）を協賛いただき、想定外の副賞に喜び合う姿やゴール後に乾いた喉を潤したり、栄養補給をしたりする姿を見ることができました。

当日は 584 名の方にご参加いただき、安全面においても大きなけがや事故などもなく、節目の大会を無事に終えることができました。

また、学校や世代の垣根を越えた交流・親睦といった普段はできない機会を提供することができ、たくさんの笑顔があふれる大会となりました。

主催者としても各協力団体・地元中学生と共に運営を行うことで、地域連携や青少年との交流を図ることができ、非常に効果的で有意義な一日となりました。

参加者の反応やスタッフの感想

――事業を実施されてみて、当日参加された方の反応や実施した上でのスタッフの感想を教えてください。

３年ぶりの開催と併せて 50 周年ということもあり、例年以上に参加者の笑顔が多かったと思います。参加してくれた子どもたちやボランティアとして来てくれた中学生にとっても最後までやり遂げる力や忍耐力、色々な方が協力し合いこの大会ができているということを経験できる良い機会になったと思います。

参加者からも「来年は１位を取るぞ！」「疲れた～」「楽しかった！」などたくさんの声をいただくことができ、来年と言わず何十年後も続く行事にしたいと強く思いました。

今回よりシールゼッケンに変更したことで、運営スタッフからも「今までよりすごく楽になった」「今後も継続したい」という声があり、参加者のみならず運営側の負担を軽減できたことにとても嬉しく思います。

開会式にてラジオ体操を行う模範生徒（中学生ボランティア）

事業を通して得られたものや課題

表彰式の様子

――そうした事業を通して、得られたものや課題などは、どのようなものがあったでしょうか？

本大会を通して得られる一番大きなものは、「参加者の笑顔」です。われわれ地区委員会は地域をより住みよいまちにするために活動をしていますので、地域の方、中でも子どもたちの笑顔を作り、見ることができるのはとても幸せなことだと思います。

今後の課題としては、申し込み方法です。保険加入に伴い、人数の事前把握やゼッケン配布を当日に行う都合で引換券が必要なため、事前に事務局へ直接申し込みへ行き、引換券を受け取り、当日に持参してもらうという方法となっています。参加者のことを考慮すると、もっと良い方法を検討する余地があると思います。

また、タイムの計測について、効率的かつ迅速に行うため、IC チップの導入を検討していますが、より多くの方に参加していただきたいという主旨で参加費を無料としていることや経費面からも十分な協議が必要と考えます。現状としては、オンライン申請など、より良い申し込み方法を模索しています。

終わりに

――最後に、今後へ向けての抱負や展望、感じたこと等を教えてください。

当事業を運営する上で、「中学生ボランティア」は今後も継続していきたいと考えています。

この取り組みは長年続いているものですが、学校側の多大なる理解と生徒を受け入れる体制が整っているからこそできるものであると思います。

このことは、これからの将来、ひいては地域活動を担う子どもたちに、人とのふれあいや地域を知ってもらう最善の取り組みだと思います。この経験はいつか「自分の住むまちはこんなにも良いまちなんだ！」と自慢できる一つの思い出にもなり、ここ小松川平井を「ふるさと」に感じるものになると確信しています。

モデル指定のポイント

○ 50 年間実施してきた実績を生かし、19 レースにも及ぶ運営を円滑に実施している。
○運営側として、少年野球の子どもたち、中学生・高校生・大学生など、大人だけでなく多くの若年層からの協力も得ている。
○地元の河川敷を使用し、通常ならサイクリングなど様々な人がいる場所を気兼ねなく走れるといった、地元の良さや主催側の協力体制の良さが前面に出ている。

連絡先
江戸川区役所小松川事務所地域サービス係
電話番号 03-3683-5183

江戸川区青少年育成小松川平井地区委員会 その他の取組

―今回指定されたモデル事例の他にも様々な取組をされていると伺っています。ご紹介ください。

「普段は体験できない！」学校に泊まろう

毎年、様々なテーマの中で、学校・学年・性別をバラバラにした班行動や悪戦苦闘しながらの火起こしなどを通して「不便な環境でも一人ひとりが工夫し協力し合う力」を経験してもらいたいという願いを込めて開催しています。

取組を始めた経緯

前身の地区委員会と野外体験キャンプを推進する会（青少年委員、子ども会連合会、ジュニアリーダークラブなど）が中心となり、平成元年度より地元小学校４～６年生を対象に横浜市少年自然の家赤城林間学園や栃木県県民の森キャンプ場、千葉県船橋市立大神保青少年キャンプ場など様々な場所にて２泊３日でのキャンプ体験を平成25年度まで開催していました。

野外体験キャンプにてテント設営をする様子

キャンプ当日は、テント設営や火起こしから行う野外炊飯、キャンプファイア、流しそうめんなどをジュニアリーダークラブが野営長、本部、指導者、カウンセラーとなり全体を指揮し、大人たちは裏方となることで若い力を伸ばすことを目指しました。

その後、現行の小松川平井地区委員会となり、予算などの関係から「地元を利用したキャンプ体験はできないのか？」「子どもたちの普段できない体験を無くすわけにはいかない」という声が上がり、平成26年度に管内小学校にて１泊２日の「校庭キャンプ」が開催され、現在に至ります。

活動内容

・事業の流れ・内容

管内６つの小学校のうち１校を利用して実施しています。開催予定日の３ヶ月前より当日の体験内容や小学校への利用申請、管内小学校への申込チラシ配布などを行い、当日を迎えます。

・組織体制（協力団体やスタッフの構成）

地区委員会のほかにＰＴＡ、子ども会連合会、ジュニアリーダークラブ、地域協力者（ＰＴＡのＯＢなど）の方々です。

また、過去に参加した児童が中学校に上がると実行委員として募集を行い、参加する側と運営する側の両方を体験できるような取り組みも行っています。

学校に泊まろうにてドラゴンボート体験をする様子

今年度は「防災体験、災害時に何をすべきか学ぼう」をテーマに江戸川消防署にもご協力をいただき、水消火器や煙体験、ＡＥＤ体験を実施し、昼食には薪を使った火起こしやカレー作り、皿作り（広告チラシ）を行い、災害時を想定した体験をしました。

学校に泊まろうにて火起こし体験をする様子

開催テーマ	開催校	内容
平成 26 年度校庭キャンプ ～地元で夏を遊びつくそう！！～	平井南小学校 第二校庭	テント設営・小松川探検隊野外炊飯・ ドラゴンボート・流しそうめんなど
平成 27 年度学校に泊まろう！ ～避難所生活を体験しよう～	平井小学校	本所防災館・火起こし・野外炊飯・ 段ボールハウス・防災ゲームなど
平成 28 年度学校に泊まろう！ ～水辺で遊ぼう～	小松川第二小学校	ドラゴンボート・テント設営・野外炊飯・ キャンプファイヤー・ハゼ釣りなど
平成 29 年度学校に泊まろう！ ～知ろう・学ぼう・高めよう防災意識～	平井西小学校	平井探検隊・防災体験・野外炊飯・ 防災ゲーム・ボッチャ・羽トンボなど
平成 30 年度学校に泊まろう！ 平井再発見！～目と足で感じよう平井の町を～	平井東小学校	平井の町オリエンテーション・箸作り・ ボッチャ・昔遊び・流しそうめんなど
令和元年度学校に泊まろう！ 平井密着・欲張りな夏～水辺で遊ぼう・ パラスポーツを体験しよう～	小松川第二中学校 平井校舎	ドラゴンボート・野外炊飯・ パラスポーツ体験・ハゼ釣り・ 流しそうめん・羽トンボなど

過去 6 年間の開催実績
（令和 2 ～ 3 年度は新型コロナウイルスの影響で中止。令和 4 年度は地区委員のみで防災講習会実施）

モデル事例３　八王子市青少年対策城山地区委員会

城山防災・スポーツフェスティバル

地区委員会の概要

八王子市青少年対策地区委員会は、中学校区を１つの単位として市内 37 地区に設置されています。小中学校、ＰＴＡ、町会・自治会、民生児童委員、保護司、青少年育成指導員など地域に密着した方々、約 2,500 名で構成され、地域の青少年の健全育成を目的に、各地区の特色を活かし、地域の清掃、地域パトロール、スポーツ大会、音楽大会等の事業を行っています。

事業の概要

――今回モデル事例に指定された、「城山防災・スポーツフェスティバル」の概要について教えてください。

当地区では、約 30 年前、中学校長の発案で、地域住民、生徒、先生の交流を目的としたイベントを行い、それ以来、城山スポーツフェスティバルとして実施してきました。

今回の実施にあたり、新型コロナウイルスの影響で２年間中止していたことから、あらためて、地域が何を求めているのか、私たちが何をすべきなのかを委員で話し合い、地域の子どもに、災害に対する心構えを身につけてもらうことが重要であるとの考えに至りました。そこで、会長が長年温めていた救命救急体験等の防災イベントを、従来のスポーツフェスティバルに組み合わせ、城山防災・スポーツフェスティバルとして実施しました。

・実施日・実施場所

令和４年 11 月 26 日（土）9:00 ～ 12:00　八王子市立城山中学校校庭・体育館

事業の目的

――事業の目的を教えてください。

子ども達に、防災に関する心構えを身につけてもらうとともに、異年齢の子ども達の交流を深めることにより、協調性や責任感を養うことです。また、保護者や地域の方々に、地域で子どもを育み、見守る気持ちを持ってもらうことも目的としています。

事前準備、周知・広報

――事業の事前準備や周知・広報について工夫したことはありますか。

会長、育成指導員、ＰＴＡ会長が中心となり準備を行いました。どんな小さな意見や気づいたことでも話してもらうよう、メンバー間で意識しながら進めていきました。

中学生作成ポスター

広報については、本会の広報誌で、地域の方々に周知するとともに、城山中学校の美術部の生徒に３作品ほどポスターを作っていただき、地域の掲示板で周知しました。
また、中学校のＰＴＡより、広報に協力したいとの申し出があったため、Ａ４のＰＲ用広報誌の作成をお願いし、生徒全員に配布していただきました。

・事業の流れや内容について教えてください。
防災イベントとスポーツイベントを組み合わせた内容としました。小学校低学年から地域の高齢者まで幅広い年齢層に参加していただけるよう、面白おかしく、楽しめることを基本コンセプトにしています。

AED 体験

起震車体験

【防災イベント】
・ＡＥＤ体験
八王子市にもキャンパスのある杏林大学の救急救命クラブ（通称ＫＥＬＣ）に所属する大学生の指導のもと、子どもや地域の方がＡＥＤ体験できるものです。
・起震車体験
八王子市の防災課の協力を得て、起震車を配車していただき、震度６以上の地震を体験できるものです。
・防災クイズ
救命救急や地震に関する問題を「ＹＥＳ」「ＮＯ」で答えられる二者択一のクイズです。雨天のことも考え、屋内でも実施できるイベントということで企画しました。ＡＥＤ体験や起震車体験は、低学年の子どもには難しかったり、怖がったりするおそれがあったので、小さな子でも楽しめるよう二者択一式にし、正解の際の景品としてお菓子を用意しました。

【スポーツイベント】
・ドッジボール大会
低学年でも楽しめ、上級生と下級生が交流できる軽スポーツとしてドッジボールを採用しました。上級生が下級生をいたわったり、下級生が上級生に憧れを抱いたりすることで、子ども達の成長に繋げていくことをねらいとしています。

【参加賞】
参加賞として、お菓子、アルファ米、八王子市健全育成キャンペーンの絆創膏セットを配りました。参加賞の内容を決めるにあたっても、子ども達が楽しみながら学べるよう配慮しました。

【組織体制】
本会がメインで企画･実施しました。また、本会には、地区内の小中学校の校長、各ＰＴＡ会長などもメンバーになっているため、それぞれの組織の御協力をいただきました。その他、起震車体験については、八王子市の防災課、救命救急体験については杏林大学救急救命クラブに御協力をいただきました。

当日の実施の様子

――「城山防災・スポーツフェスティバル」の当日の様子について教えてください。

当日は雨が降ったりやんだりの天気でしたが、地域の子どもや大人、総勢185名の参加がありました。

まず、イベント開始に先立ち、城山中学校の野球部員がリードして全員でラジオ体操を行いました。その後、校庭と体育館に分かれ、それぞれイベントを開始しました。

【屋外イベント】

• 起震車体験

低学年の子どもの中には怖がり、参加しない子どももいましたが、148名もの多くの参加がありました。子ども達は、激しい揺れに驚き、地震の際にとるべき行動など、学校で普段教わっていることの重要性について、身をもって感じているようでした。

ドッジボール大会

• ドッジボール大会

試合をして勝敗や順位を決めることが目的でなく、児童や生徒の交流に主眼をおいているため、あらかじめチームの編成を決めるのではなく、参加したい子ども達に自由に参加してもらう形としました。

担当は、ドッジボールの指導に長けている弐分方小学校の先生方に引き受けていただきました。コートのライン引きの段階から、ゲーム性をもたせた形で行うなど、工夫に満ちた指導のお陰で、大変盛り上がり、普段接することの少ない異年齢の子ども達が交流を深めていました。

じゃんけん大会

• 防災クイズ

ＹＥＳ、ＮＯの二者択一にしたこと、回答者として校長も参加し、子どもと競い合っていたこと、正解した際の賞品（お菓子）を用意したことなどもあり、大変盛り上がりました。クイズの内容も、会長や育成指導員を中心に、救命救急や防災に関する基本的なものを厳選したため、多くの子どもが、防災の大切さを楽しみながら、学んでいたのではと思います。

【屋内イベント】

• ＡＥＤ体験

子どもや保護者など、65名の参加がありました。体育館を会場に、講師となるＫＥＬＣの大学生が３か所に分かれ、模擬人体に対するＡＥＤ体験のレクチャーを行いました。体験した子ども達も、年齢の近い大学生から教えてもらったため、お兄さん、お姉さんのお話に熱心に聞き入っていました。

• じゃんけん大会

途中で雨が降ってきたので、屋外のイベントを切り上げ、屋外イベント参加者に体育館に集まってもらうようにしました。人数が増えたため、それまで行っていた屋内イベントを中止せざるを得ませんでした。そこで各学校のＰＴＡ会長と相談し、全員が参加できる、じゃんけん大会を急遽、行いました。校長、ＰＴＡ

会長などが司会者となり、子ども達とじゃんけんをするもので、普段じゃんけんをすることのない校長達とじゃんけんできることもあって時間を超えて大盛況でした。

参加者の反応やスタッフの感想

――事業を実施されてみて、当日参加された方の反応や実施した上でのスタッフの感想を教えてください。

昨年まで６年生として一緒に登校していた子どもが、今度は中学生として活動する姿を目にして、小学生が憧れを持ち、将来進学する中学校を身近に感じていたことが印象的でした。

保護者からも、「今まで中学校の場所さえ知らなかったので、今回知ったことで子どもを安心して中学校に送り出せる」、「地域の方が主体で、このようなイベントをやっていただけることがうれしい」といった感想をいただきました。

事業を通して得られたものや課題

――そうした事業を通して、得られたものや課題などは、どのようなものがあったでしょうか？

どのイベントでも当てはまることだとは思いますが、同じことを繰り返していては、すぐに飽きられてしまうので、変化を取り入れていくことが課題です。

令和５年度は、地域の警察署と連携して、子ども達が興味を持つ白バイやパトカーに触れてもらったり 、自転車の乗り方について学んでもらったりする内容を加えた形で企画しています。

終わりに

――最後に、今後へ向けての抱負や展望、感じたこと等を教えてください。

特に、今回実施したＡＥＤ体験を一回のみで終わらせることなく、広く地域に根付かせることができたらと考えています。

また、城山地区では、地区委員会の活動に参加した子どもが成人し、今度は親として運営する側で活動に関わるといった良いサイクルができているので、この流れを継続していきたいと思います。

モデル指定のポイント

○準備までは地区委員会主導で行っているが、当日の実施については保護者や地域の学校の教員、学生などの自主性を重視している。

○ＡＥＤ体験などは、杏林大学の学生ボランティアと協力して実施するとともに、八王子市の防災課と連携して起震車体験を行うなど、若年層や地元との連携も上手に行えている。

○本取組をはじめ、地区委員会独自に校区の中学３年生に感謝状を贈呈するなど、地域全体で青少年の健全育成に取り組んでいる。

連絡先
八王子市子ども家庭部青少年若者課
電話番号 042-620-7435

八王子市青少年対策城山地区委員会 その他の取組

―今回指定されたモデル事例の他にも様々な取組をされていると伺っています。いくつかご紹介ください。

中学校の卒業生に対する善行賞の授与

地域や学校に貢献している中学３年生を表彰することで、自己肯定感を高め、地域や人々のために行動できる公共心溢れた子どもを育成することを目的とします。また、地域から表彰されることで、地域で育てられているという実感を子ども達に持ってもらうこともねらいとしています。

取組を始めた経緯

約 15 年前に、本会会長より中学校に提案したことがきっかけです。中学校には、勉強だけでなく、いろいろな活動に打ち込んでいる子どもがいるのに、その子たちが評価される機会が少なかったため、地域で褒めようということで始めました。学校や保護者の反応も良く、継続して実施しています。

活動内容

- **実施日、実施場所**　令和５年３月 14 日（卒業式予行日）　城山中学校体育館
- **事業の流れ・内容**

在学中、以下の基準に該当する活動を行った中学３年生を表彰するものです。

例年 10 月ごろ、本会より中学校に対し、該当する３年生を各クラス５～７名、推薦していただくよう依頼します。各クラスでは、生徒同士による互選や担任教師による推薦により被推薦者を決定し、校長に報告します。最終的に校長が対象者を決定したうえで、本会に推薦されます。３月中旬の卒業式予行日に、該当者に対し、本会会長より賞状と記念品が授与されます。

- **組織体制 (協力団体やスタッフの構成)**

本会が、城山中学校の協力を得て実施しています。

【選考基準（一例です）】

★教室内の美化に積極的に努め、教育環境を改善した生徒
★クリーン活動（地域清掃活動）などの環境美化活動に積極的に参加し､他の生徒の模範になった生徒
★学校行事に対して、貢献度の高い協力を行った生徒（応援団長として優勝に貢献した、ピアノ伴奏や指揮者として貢献したなど）
★校外や地域においてボランティア活動に積極的に参加するなど、地域社会への貢献が評価されている生徒
★部活動に積極的に参加、自己の目標を達成し、他の生徒の模範となる活動をした生徒

当日の実施の様子

令和５年３月 14 日、卒業式予行日に、本会の会長から約 30 名の対象者に対して表彰し、記念品 (シャープペンシル) の贈呈を行いました。

子ども達は緊張した面持ちでしたが、全校生徒の前で３年間の活動を、地域から評価されたことで、とても誇らしげな表情をしていました。また、後日、保護者も喜んでいたとの声も聞いています。

事業を通して得られたものや成果や課題

事業の目的は、概ね達成できたと考えています。また、在校生の中には、上級生に対し憧れをもった子どももおり、地域や他者のために行動できるよう動機づける場ともなっていると感じました。

健全育成標語

子ども達に、いじめ、不登校、思いやりなどをテーマにした標語を考えてもらい、思いやりの心を育むことを目的としています。

取組を始めた経緯

数十年前より、引き継がれている事業です。

活動内容

・実施日、実施場所
期間　２～３学期
場所　八王子市立城山中学校、八王子市立城山小学校、八王子市立弐分方小学校

・事前準備、周知・広報
選定された標語については、地域に 10 ヶ所ある本会の掲示板にて掲示しています。

・事業の流れ・内容
まず、本会理事会においてテーマ設定を行います。設定の際には、本市の青少年問題協議会にて審議された青少年健全育成重点目標などを参考にしています。
その後、２学期中、本会から各学校に対して、テーマに沿った標語の募集を行います。
各学校では、それぞれのやり方（たとえば授業中に考えてもらう、宿題として考えてもらうなど）で標語を募集します。
各校の標語は中学校に集められ、中学校の生徒会が、一次審査として各校 20 作品を選考します。その後、本会理事会にて、選考された標語の中から各校 10 作品を選考し、選考作品を各校で表彰します。その後、地域内の掲示板にて掲示します。

・組織体制（協力団体やスタッフの構成）
本会が、各学校の協力を得て実施しました。

当日の実施の様子

令和４年度のテーマを「みんなで育む思いやりの心」に設定し、これに関する標語の募集を各学校に依頼しました。
その結果、城山中学校 75 作品、城山小学校 370 作品、弐分方小学校 173 作品の応募があり、最終的に 30 作品が表彰されました。
各学校にて、本会会長または校長より表彰を行い、受賞作品を地域に掲示しました。

地域に掲示された標語

事業を通して得られたものや成果や課題

多くの子ども達の応募がありました。いじめの防止など、普段、意識することが少ないことを考えてもらったことで、良い意識づけができたと思います。
また、中学生に標語の選定に関わってもらったことで、地域活動への参加について動機づけることもできました。こども基本法が施行され、子どもの意見を聞くことが大切になってきている中、この取組を継続していきたいと思います。

地域の取組事例の紹介

西東京市青少年育成会連絡会（第 22 回西東京市歩け歩け会実行委員会）

第 22 回西東京市「歩け歩け会」
～イベントを通じた中学生ボランティアの活動場所づくり！～

事業開始の経緯

青少年が積極的に活動できるように、また、青少年が社会貢献の機会を提供できるようにすることを目的に、保谷市の青少年問題連絡協議会（現育成会連絡会）によって、「歩け歩け会」が始まりました。

その後、平成 13 年の田無市と保谷市の合併を機に、平成 14 年 4 月に西東京市青少年育成会が発足したことから、旧市の活動を引き継ぎ、現在に至っています。

事業内容

この事業は、毎年 11 月 3 日に、多摩湖自転車歩行者道の起点である西東京市から、東大和市にある都立狭山公園（多摩湖）までのゴールを目指し、約 13 キロを歩くものです。参加対象者は、西東京市市民と西東京市に在勤・在学の方となります。

目的としては、市内の中学生等のボランティア参加を促し、目的地までの誘導、交通誘導等により事業に関わることで、主体性の確立、社会性を培うこととなります。また、参加する青少年と地域住民との交流と親睦を深めることも目的の一つです。

主催は、市内 18 小学校のそれぞれの小学校区にある地域団体で構成されている、西東京市青少年育成会連絡会（第 22 回西東京市歩け歩け会実行委員会）です。企画運営を実行委員会方式で行っており、実施までに 4 回の会議を経て、準備を進めました。

また、西東京市交通安全協会にもご協力いただき、交通誘導等サポートしていただきました。

広報については、市内の小・中学校や公共施設、地域へのポスター掲示やチラシ配布、市報や FM 西東京（ラジオ）により周知しました。

当日の実施の様子

今年度は、令和 5 年 11 月 3 日（祝･金）に第 22 回西東京市「歩け歩け会」を実施しました。汗ばむほどの晴天に恵まれ、300 名を超える参加者が集まりました。参加者たちは、西東京市立田無第四中学校において開会式を行った後に、ゴールを目指して約 13 キロを歩きました。

このイベントは、令和 2 年度から令和 4 年度まで、新型コロナウイルス感染症の影響により、中止となっていましたが、4 年ぶりに開催することができました。

当日は、約 40 名の中学生ボランティアや約 80 名の地域の大人のスタッフ（育成会会員やＰＴＡの保護者など）が集まりました。

地域の大人のスタッフは、実行委員会が中心となって、参加者の受付や交通誘導、中学生ボランティアへのアドバイスなどを行いました。

中学生ボランティアは、地域の大人のスタッフとともに参加者の安全の確保を

するため、多摩湖自転車歩行者道の危険箇所などで交通誘導をしたり、参加者に励ましの言葉をかけたり、ゴール地点での受付などを積極的に行ったりする姿が見られました。

また、中学生ボランティアは、異なる学校の中学生が協力して担当する持ち場もあり、他校と交流する機会にもなりました。

事業を通して得られたものや成果や課題

当日は、中学生ボランティアたちは、地域の大人のスタッフのアドバイスを受けながら、一生懸命、持ち場について役割を果たそうと奮闘していました。そのおかげで、事故やけがもなく、無事に事業を終えることができました。

事業を通して、中学生たちの社会貢献や地域との交流を深めることができたと感じています。

また、今回から、自転車を使用する中学生ボランティアや地域の大人のスタッフについては、ヘルメット着用を義務付けたことで、市民の方々にもその必要性を意識づけることができたと考えています。

今後は、中学生ボランティアの参加をいかにして増やしていくことが課題だと考えています。そのためには、中学生たちにボランティア活動の重要性を啓発し、参加しやすい環境を整えることが重要だと思います。

開会式　実行委員長あいさつ

スタート地点　出発する参加者たち

ゴールを目指して 13km 歩く様子

ゴールの様子

連絡先
西東京市子育て支援部児童青少年課
電話番号 042-460-9843

地域の取組事例の紹介

神津島村教育委員会

巨樹と清流の町、奥多摩ふれあい学級
～奥多摩の歴史を学び、地域の小学生と交流を図る～

事業開始の経緯

奥多摩町との交流は、昭和 20 年（1945 年）7 月、太平洋戦争末期における、神津島村から奥多摩町への集団疎開に始まります。終戦から長い月日が経過し、記憶の風化やこれまでの経緯を知る人が少なくなる中、次世代への橋渡しの意味を含め、交流の継続ならびに友好の絆を深め、両町村がともに発展することを念願し、平成 29 年 10 月に奥多摩町・神津島村友好交流協定を結びました。

平成 10 年から毎年、夏休みシーズンを利用して、奥多摩町の児童が神津島村に訪れる洋上セミナー事業や、隔年で神津島村から奥多摩町に訪れ、奥多摩町の小学生と交流を図る奥多摩ふれあい学級を継続して実施しています。

事業内容

本事業は神津島村に在住する少年少女が学校や家庭以外の場で集団活動を行うことにより、自立、協調性、創造性を育み、島の将来を担うリーダーの養成等を図ること、自然体験の機会の場の拡充を目的とし、ふれあいと体験をテーマに実施しています。

令和 4 年度奥多摩ふれあい学級は、令和 5 年 3 月 25 日から 3 月 28 日に実施されました。神津島村の小学 4 年生～ 6 年生を対象として行われ、約 40 名が参加しました。

奥多摩地域の水の歴史を学び、鍾乳洞探索や渓流釣り、木工教室にチャレンジしたり、奥多摩町の小学生と交流を行い、様々な体験を通じて青少年育成を推進しています。

事前の周知については、事業の対象の神津小学校 4 年生～ 6 年生に参加募集のアンケートを実施し、参加者を募りました。実施の組織体制としては、神津島村教育委員会及び神津島村役場協力職員、奥多摩町教育委員会にて実施しました。

当日の実施の様子

1 日目は、10 時頃神津島を船で出発し、17 時 30 分頃東京湾竹芝桟橋に到着し、その日はそのまま島嶼会館に宿泊しました。

2 日目の早朝、奥多摩町にて用意いただいたバスに乗り、約 3 時間の道のりを経て、奥多摩町へ移動。道中、あまり見ることが無い東京都内のビルの景観を眺めながら奥多摩町へ向かいます。西側へ進むにつれて、自然あふれる山の景色を見て子どもたちは感動していました。奥多摩町福祉会館にてお弁当を食べた後、山のふるさと村へ移動し、奥多摩町の子どもたちと一緒に陶芸教室を体験しました。初めて陶芸を体験する児童が多い中、器用に制作する児童が多いことに驚きました。交流を深めながらコップや茶碗を作製、約 1 時間で完成しました。焼きあがった陶芸作品は、約 2 か月後に神津島に到着し、児童の手に渡りました。陶芸教室終了後、小河内ダム・水と緑のふれ

あい館を散策しました。ダムから見た奥多摩湖の湖面に映る空の水影はとても美しく子どもたちも見入って感動していました。

３日目は日原鍾乳洞を散策し、午後には氷川国際マス釣り場で渓流釣りを行いました。神津島村にはない鍾乳洞、釣りは釣りでも川釣り体験は初めての児童が多くいました。子どもたち皆、マスをたくさん釣ることができ、楽しく過ごしている様子でした。

神津島村では体験できないことを奥多摩町の児童と体験できたことはとても貴重な思い出となり、成長の糧となりました。

事業を通して得られたものや成果や課題

神津島という狭いコミュニティの中で生活している子どもたちが、別地域においてさまざまな方々と接し、触れ合うことが出来ました。この経験を通して、多様性や多文化を受け入れる心を育むことができたと思います。また、今後島外で生活を送ることになった場合の最低限の規範意識を確実に身に付けたと確信しています。

神津島の人間性なのかシャイな児童が多いと感じました。しかし、大人がきっかけ作りをしてあげることで、打ち解けることができ、今回のような交流に繋げられたと思います。

開校式

奥多摩町の児童との集合写真

氷川国際マス釣り場で渓流釣り

陶芸教室

連絡先
神津島村教育委員会
電話番号 04992-8-1222

参考情報　東京都の青少年健全育成事業（概要）

東京都では、次世代を担う青少年を地域全体で健全に育成するために、次のような事業を実施しています。

地区委員会アドバイザー派遣事業

地域活動の活性化に役立つ様々な知識をもつ専門家をアドバイザーとして派遣し、地区委員会活動の悩みを解決する取組について、一緒に考えます。

●事業内容（申込制）　※申込は区市町村青少年行政主管課経由でお願いいたします。

内　容：地区委員会の希望に合わせた講義やワークショップによるアドバイス
対　象：都内の地区委員会（複数の地区委員会の合同でのお申込みも可能）
会　場：学校、区市町村の会議室、ホール、公民館等（会場はご用意ください）
　　※ Web 会議システムを利用したオンライン実施及び併用も可能です。
経　費：無料
実　施：土日祝日実施も可　午前９時～午後９時（年末年始を除く）
時　間：１回１時間～２時間
人　数：１０名～１２０名程度（団体単位でお申込みください）
ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ：まちづくりコーディネーター、地域活動支援の専門家、大学講師など
質　問：講座実施後、講座内容に関してアドバイザーへの質問が可能

●実施例

「ひと工夫して実践‼ 新たな企画づくりの考え方・進め方」や「地区委員会の活動の魅力を仲間や地域に広げるヒント」などをテーマに講義とグループワークを実施しました。

青少年応援プロジェクト

地域の中で、様々な人との交流により“コミュニケーション力を育む”、“多文化への理解を深める”“他者を思いやる”など、青少年のダイバーシティ意識を育む取組を推進するために東京都と区市町村が連携して実施する事業です。

障害者や高齢者への理解

スポーツ・職業体験等

多文化への理解

実施区市町村の意見を伺い、テーマや希望に沿った講師・プログラムを都が用意します。

事例１ スポーツ・職業体験等

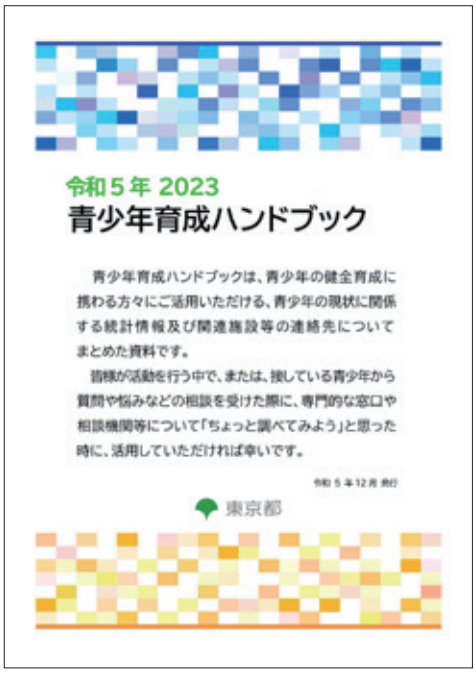
「輝く人生への道 ～理想の自分への成長の秘訣」を題材に講義を行いました。

事例２ 障害者や高齢者への理解

「発達障害についての理解を深める」を題材に講義を行い、合理的配慮などについて グループワークを行いました。VR（Virtual Reality）を使った自閉症体験も実施しました。

○対象は、青少年、青少年の健全育成に携わる地区委員及び地域住民等です。
○区市町村で実施する既存事業の中でのご活用も可能です！
　例：地区委員会研修会、学校での講演会、ジュニアリーダー研修会等
○令和６年度の申込みは３月ごろ区市町村宛てにご案内します。

青少年育成ハンドブック



青少年育成ハンドブックは、地区委員会委員の方や、青少年の健全育成に携わる方々にご活用いただける、青少年の現状に関係する統計情報及び関連施設等の連絡先についてまとめた資料です。皆様が活動を行う中で、または、接している青少年から疑問や悩みなどの相談を受けた際などに、ご活用ください。

【主な内容】

- 東京都の青少年の現状
- 青少年施策
- 地域における青少年育成の推移と現状
- 青少年関係規程・用語等
- 青少年関係施設・相談機関

家族ふれあいの日

民間事業者と連携し、18 歳未満の子供を含む家族で利用するとサービスが受けられる優待制度の協力店や施設を紹介することで、家族とのふれあいを促進しています。

中学生の主張東京都大会

中学生から、日常生活で考えたことや社会に向けての意見等をまとめた作文を募集し、スピーチコンクールを開催しています。

コンクール当日の様子（動画）はこちらからご視聴いただけます。

過年度青少年健全育成地区委員会等推進モデル事例一覧（直近10年間）

	事例名	場所	取組主体
令和４年度	すみだっ子たちの夢支援	墨田区	墨田区青少年育成委員会連絡協議会
	～夏休み企画～親子で楽しもう！ えばごリアルクエスト☆	品川区	品川区青少年対策荏原第五地区委員会
	我が町探検！防災ウォーキング	板橋区	板橋区青少年健全育成中台地区委員会
	謎解きゲーム「第八版　北町の刃なぞとき編」	練馬区	練馬区青少年育成第八地区委員会
	CAP(キャップ) ワークショップ	武蔵野市	武蔵野市青少年問題協議会第三地区委員会
	平和への願いを込めて折り鶴を折ろう	国分寺市	国分寺市青少年育成南地区委員会
令和３年度	文の京こどもまつり	文京区	文京区青少年健全育成会九地区合同行事実行委員会
	建築家 隈 研吾 氏 講演会	大田区	大田区青少年対策田園調布地区委員会
令和２年度 ※	じゃがいもクラブ	世田谷区	世田谷区青少年上祖師谷地区委員会
	【在宅版】みねまち親子木工教室	大田区	大田区青少年対策嶺町地区委員会
	職場体験・動画版	墨田区	墨田区桜堤中地区青少年育成委員会
	一小地域みまもりクエスト	武蔵野市	武蔵野市青少年問題協議会第一地区委員会
令和元年度	牛込第二中学校との連携事業	新宿区	新宿区早稲田地区青少年育成委員会
	農業体験学習（田植え・稲刈り）	大田区	大田区青少年対策新井宿地区委員会
	防災キャンプ	大田区	大田区青少年対策蒲田東地区委員会
	学校プレイパーク	江戸川区	江戸川区青少年育成松江北地区委員会
平成 30 年度	中学生対象事業	品川区	品川区青少年対策荏原第三地区委員会
	ふれあいニューイヤーマラソン大会	江戸川区	江戸川区青少年育成葛西第二地区委員会
	小学校卒業記念ナイトウォーク	江戸川区	江戸川区青少年育成小松川平井地区委員会
	もちつき会	あきる野市	あきる野市青少年健全育成五日市地区委員会
平成 29 年度	深小キャンプ	調布市	調布市健全育成推進深大寺地区委員会
	復興支援　フリーマーケットとおもちつき	小平市	小平市青少年対策二小地区委員会
	横山地区青少年育成ロードレース大会	八王子市	八王子市青少年対策横山地区委員会
	羽村市青少年健全育成の日事業（子どもフェスティバル）	羽村市	羽村市青少年対策地区委員会連絡協議会
平成 28 年度	練馬区子どもフェスティバル	練馬区	練馬区青少年育成第四地区委員会
	いけばな子ども教室	調布市	調布市健全育成推進若葉地区委員会
	八ヶ岳キャンプ	多摩市	多摩市落合地区委員会
平成 27 年度	落一育成会スノーツアー ～子供に雪国の楽しさ厳しさを体験させる～	新宿区	新宿区落合第一地区青少年育成委員会
	菅刈キャンプ ～「次世代コミュニティリーダー育成」の実践～	目黒区	目黒区菅刈住区住民会議青少年事業部
	商店街探検・店員体験	町田市	町田市青少年健全育成原町田地区委員会
	田んぼ・畑活動	町田市	町田市青少年健全育成小山田地区委員会
平成 26 年度	みなとキャンプ村	港区	港区青少年対策地区委員会
	一中学区青少年対策事業 (標語コンクール・意見発表会・巣立ちの会)	三鷹市	三鷹市青少年対策第四・第六・南浦地区委員会
	青梅っ子わいわいフェスタ	青梅市	青梅市青少年対策青梅地区委員会
平成 25 年度	「目黒区青少年委員会の試み」 ～中高生による駄菓子屋と工作教室の運営～	目黒区	目黒区青少年委員会
	あいさつ運動	目黒区	目黒中央中学校区地域教育懇談会
	栄町・若葉町青少健プール	立川市	青少健栄町地区委員会、青少健若葉町地区委員会
	「共成小地区委員会」～子供と大人、大人と大人の橋渡し～	昭島市	青少年とともにあゆむ共成小地区委員会
	一年生下校時付き添い隊・見守り隊	清瀬市	清瀬市青少年問題協議会第四地区委員会

※リーフレット（コロナ禍により事例集未作成。）

地区委員会等推進モデル事業について

東京都は、都内の家庭、地域社会、学校が連携し、青少年を地域ぐるみで育成する取組を「推進モデル」として指定し、広く都内各地域に紹介しています。

●概要

【推進モデル指定条件】

推進モデルは、地域ぐるみで青少年を健全に育成することを目的とした、以下の (1) から (3) までを満たしている活動です。

（1） 令和５年度（令和５年４月１日から令和６年３月３１日）中に実施した事業であること

（2） 地域社会（地区委員会、ＮＰＯ団体、町会、商店会等）、学校、関係機関等と連携を図って取り組んでいること

（3） 青少年の正義感や倫理観を育むと共に、他者を思いやり、多文化への理解を深めるなど多様性の意識を育むために実施する取組で、以下のアまたはイに該当するものであること

ア 地域の中で青少年を育てる取組

イ 青少年の体験を豊かにする取組

●推進モデルに指定された場合

◇東京都が作成する「青少年健全育成地区委員会等推進モデル事例集」に、取組事例を掲載します。
事例集を東京都のホームページにも掲載することにより、取組事例を広く紹介します。

◇毎年開催される地区委員会の研修会でも取組事例を紹介させていただきます。

◇東京都知事表彰である「東京都青少年育成協力者等表彰」に推薦させていただきます。

●令和６年度の地区委員会等推進モデル事業の募集について

令和５年度に実施した都内地区委員会の取組について、区市町村を通じて令和６年３月に募集依頼予定です。

皆様の様々な工夫事例をお待ちしています。

【スケジュール（予定）】

・募集	（令和６年３月～５月）
・ヒアリング	（令和６年５月）
・モデル指定・モデル事例集原稿依頼	（令和６年６月）
・モデル事例発表	（令和７年２月）

参考リンク集

地域における青少年の健全育成事業

多文化共生の推進

若年支援

東京子供応援協議会

令和5年度
青少年健全育成地区委員会等
推進モデル事例集

令和6年1月発行

登録番号（5）86

編集・発行　東京都生活文化スポーツ局
〒163-8001
東京都新宿区西新宿二丁目８番１号
電話 03（5388）3098

印　　刷　株式会社モモデザイン
〒167-0035
東京都杉並区今川三丁目20番10号
電話 03（5303）2790

R80
古紙パルプ配合率80%再生紙を使用
VEGETABLE OIL INK
リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。